

自閉症のあるAさんの特性やニーズに合わせて 教材や支援を配慮した国語の学習

国語 第2学年

石川県立明和養護学校松任分校中学部・教諭

1 事例の概要

Aさん(中学部)には、広汎性発達障害があり、こだわりや聴覚過敏が見られる。中学部入学後、見通しの持ちやすい帯状の日課で、Aさんの興味・関心に沿った学習を軸に取り組んできたことにより、集団参加も進み、落ち着いて過ごせるようになった。ただ、一見些細なことと思えるような事柄に苦痛を感じてパニックに陥ってしまったり、思いが人に伝わりにくい面があって戸惑う様子が伺えた。一方、手芸など手先を使ったことが得意で、色に強い関心を示すほか、本・ビデオを見ることやお出かけ、ドライブ等が好きである。

国語に関しては、ひらがな、カタカナはほぼ習得しており、漢字は小学校2年生程度のもは読める。また動きを表すことばの理解や絵カードを見て2語文を構成すること等は学習している。

このようなAさんの、自閉症の特性も含めた実態に合わせて、課題設定や支援の仕方を配慮して取り組んだのが本事例である。個別の教育支援計画に基づいて個別の指導計画を立てているが、Aさんのニーズを基に、今が充実し、将来の生活が豊かなものになるように、国語の学習においては、身近なことばを中心とした語彙の拡充や人との適切なやりとりを大事にして取り組んだ。

2 実践内容

(1) 目標

日常の語彙力を豊かにすることで、周りの人との意思疎通を円滑にする。

(2) 指導上の工夫点

① 課題の内容や量に見通しが持てるようにするための工夫

- ・どんな課題をどの順番でするのかを事前にカードで提示して確認、了解を得るようにした。
- ・一つの学習を長く続けることは難しいので、課題を複数組み合わせることで集中が続くようにした。

② 具体的でわかりやすい視覚的な教材の活用

- ・Aさんはことばでの指示やことばで答えることが苦手なため、絵や文字カード、具体物を使った操作的活動を多く取り入れた。
- ・自分の目で正否が確認できると安心できるので、正解確認シート等を準備するようにした。

③ 身近で、興味・関心に沿ったこと(好きなことや得意なこと)を取り入れる工夫

- ・教材は色遣いがきれいなもの、好きなキャラクターの絵、好む材質のものを用意した。
- ・Aさんにとって身近なもの(生活や趣味とつながるようなもの)を題材にするようにした。

④ やりとりをよりスムーズにするための工夫

- ・場面に合った適切なことばを文字カードにして提示しておいた。将来働くことをイメージし、「できました」、「手伝ってください」や「先生、来てください」等のカードを準備した。
- ・Aさんの気持ちを受け止めながら、場面に合ったことばをモデリングするよう努めた。
- ・禁止や否定的なことばは避け、どうしたらいいのかを具体的に伝えるようにした。

⑤ 評価の工夫

- ・評価の観点を明確にし、授業では具体的な評価規準を設定するようにした。規準に沿って評価し、次の指導につなげていくようにした。(日々の記録の中で評価)


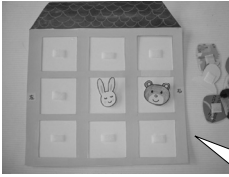
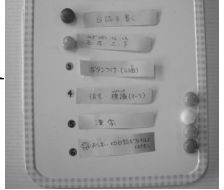
B-1 個別の教育支援計画

B-2 個別の指導計画

B-3 教材・教具の工夫

3 指導の実際

本時の展開

時間	学習活動	指導の手だて・支援	評価規準
10分	1 一人で学習する。 ・漢字のマッチング他 	<ul style="list-style-type: none"> 一定時間、自立的に学習できるように、一人でできる課題をいくつか並べておく。 全部できたら、「できました」と伝えられるように手がかりとして文字カードを準備しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分から席について課題に取り組んでいる。 できたことをカードを見ながら伝える。
25分	2 教師とやりとりしながら、学習する。 ・課題の順番を決める。 ・教師の説明を聞いて、パネルに上下、左右正しく絵カードを貼る。 ・写真を見て、「いつ」「どこで」「だれが」「何をした(する)」「〇〇さんの気持ちは？」を空欄に書く。	<ul style="list-style-type: none"> 課題の内容をカードを提示し、順番を自分で決めるように促す。 Aさんの写真や好きなキャラクター(動物)カードと、9つの部屋のパネルを用意する。 Aさんにとって印象に残った出来事や、楽しい活動を写した写真を用意する。「いつ」「どこで」等の横にはヒントになるような選択肢(例)を書いておく。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px;"> 一つ終わるごとに番号の上に同じ色のマグネットをおくよ </div> 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の説明をきいて、絵カードを正しい位置に貼ることができる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px;"> 「〇は△の下に住んでいます」という説明を聞いて、カードをぴったりの場所に貼るよ </div> 

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 課題の内容や量に見通しが持てるようになるための工夫

Aさんは自分から「勉強」と伝えて席に着いた。課題の順番は自分で決めてパネルに貼り、順番を確認しながら取り組んでいた。一つ終わるごとに教材を所定の場所に自分で片づけ、次の学習に向かった。複数の課題を組み合わせたことで時間いっぱい集中して取り組むことができた。

(2) 具体的でわかりやすい視覚的な教材の活用

視覚的な教材によって、何をすればいいのかがわかり、戸惑うことなく安心して学習に取り組めたようである。また、答えの正否が自分で見て確認できると満足そうな表情だった。様子のことばや漢字の読み、上下・左右等を知ることができ、生活の中にも徐々に広がってきた。

(3) 身近で、興味・関心に沿ったこと(好きなことや得意なこと)を取り入れる工夫

好きな要素が入ることで、意欲を持ち続けることができたようである。好きなことや得意なことは、Aさんにとって学習を効果的に進める上で大きな手助けになるものであった。楽しみがあると苦手なことにもがんばって取り組もうとする姿が見られた。

(4) やりとりをよりスムーズにするための工夫

「できました」は自分から伝えてくれるようになり、それは作業学習等の場面にも広がった。できたものをうれしそうに見せて「できた」、「できました」と伝えてくれることも多くなった。また、困ったときに「手伝って」、「先生、来て!」なども自然に言えるようになってきた。

(5) 評価の工夫

評価規準を設定することで、授業のねらいが明確になり、授業づくりを考える上で参考になった。その結果、十分ではないがAさんにより合った課題や教材を準備できたのではないかと感じる。また、評価はAさんへの理解につながり、個別の教育支援計画や個別の指導計画を適切に見直しすることができた。今後も授業に結びつく評価を大事にしていきたい。